

平成28年度病害虫発生予察注意報第10号

平成29年3月17日
愛 知 県

作物名：イネ
病害虫名：イネ縞葉枯病

1 発生地域 県内全域

2 発生程度 やや多い

3 注意報発表の根拠

(1) 2月中旬から3月上旬に県内22地点の畦畔雑草等から採取したヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は平均6.7%（検定虫数525頭）であった。

また、西三河地域では、保毒虫率が10%を上回る高い地点がみられた（図1）。

(2) 越冬世代の保毒虫率が5から6%以上になると本田での発病株が多くなり、経済的被害を生じる可能性があるという報告がある。

(3) 以上により、平成29年度作水稲におけるイネ縞葉枯病の発生量がやや多くなると見込まれる。

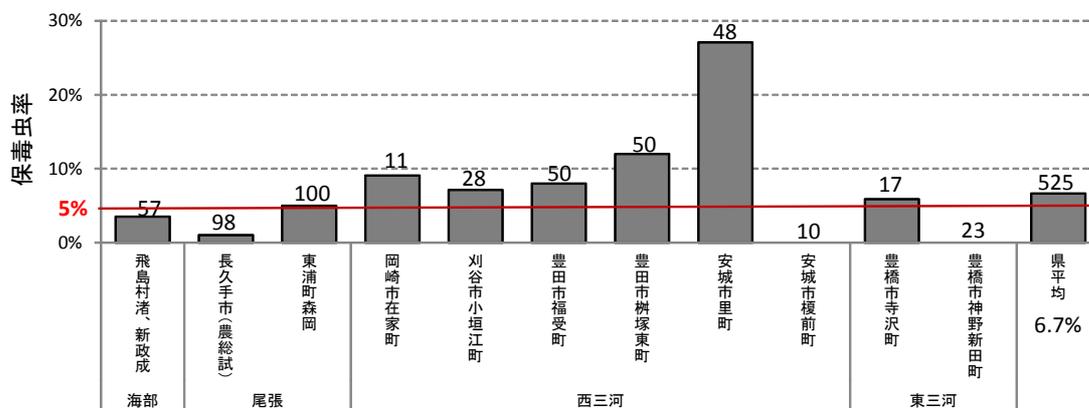


図1 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率
グラフ上の数字：検定虫数（頭）、検定虫数が10頭未満の地点は省略

4 防除対策

(1) 生育初期のイネ縞葉枯病ウイルスの感染を防ぐため、移植栽培では育苗箱施薬、不耕起V溝直播栽培では殺虫剤の種子塗抹（以下「育苗箱施薬等」）で、本病を媒介するヒメトビウンカを防除する。

(2) ヒメトビウンカを対象に育苗箱施薬等を実施していない場合は、ムギ畑から飛来する成虫を対象に本田防除（6月上旬～中旬頃）を実施する。

(3) 育苗箱施薬等を実施した場合でも、効果が低下する時期に病害虫発生予察情報等を参考に、ヒメトビウンカの発生状況を把握し、本田防除を実施する。

(4) 田植え前および作期を通して水田周辺や畦畔等の除草を徹底する。

(5) イネ縞葉枯病抵抗性品種を作付けする。

表1 ヒメトビウンカに対する主な育苗箱施薬

| 薬剤名 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | RACコード |
|--------------|---------------------------|---------|------------------------|
| アドマイヤーCR箱粒剤 | は種時(覆土前)～ 移植当日 | 1回 | I:4A |
| プリンス粒剤 | は種前、 は種時(覆土前)～ 移植当日 | 1回 | I:2(B) |
| オリゼメートプリンス粒剤 | 移植3日前～ 移植当日 | 1回 | I:2(B) F:P2 |
| ビルダープリンス粒剤 | 緑化期～ 移植当日 | 1回 | I:2(B) F:P2 |
| プリンスリンバー箱粒剤 | 移植3日前～ 当日 | 1回 | I:2(B) F:7 |
| フルサポート箱粒剤 | 移植2日前～ 当日 | 1回 | I:4A I:5 F:7 F:16.1 |

RACコードの「I:」の後に続く文字はIRACコードを示し、「F:」の後に続く文字はFRACコードを示す。

表2 ヒメトビウンカに対する乾田直播水稻での種子塗抹剤

| 薬剤名 | 希釈倍数・使用量 | 使用時期 | 本剤の使用回数・使用方法 | IRACコード |
|-------------|--------------------------|------|---------------|---------|
| アドマイヤー顆粒水和剤 | 種もみ4～8kg当り 30～40g/10a | は種前 | 1回・種子塗抹(未催芽籾) | 4A |

乾田直播水稻栽培は不耕起V溝直播栽培を含む。

表3 ヒメトビウンカに対する主な本田防除薬剤

| 薬剤名 | 希釈倍数・使用量 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | IRACコード | 備考 |
|--------------|--------------------|----------|---------|---------|-----------------------|
| スタークル液剤10 | 1000倍(60～150L/10a) | 収穫7日前まで | 3回以内 | 4A | |
| スタークルメイト液剤10 | | | | | |
| スタークル豆つぶ | 250～500g/10a | 収穫7日前まで | 3回以内 | 4A | |
| ダントツ水溶剤 | 4000倍(60～150L/10a) | 収穫7日前まで | 3回以内 | 4A | |
| ダントツ粒剤 | 3kg/10a | 収穫7日前まで | 3回以内 | 4A | |
| MR. ジョーカーEW | 2000倍(60～150L/10a) | 収穫14日前まで | 2回以内 | 3(A) | |
| トレボンEW | 1000倍(60～150L/10a) | 収穫14日前まで | 3回以内 | 3(A) | |
| トレボンエア | 8倍(0.8L/10a) | 収穫14日前まで | 3回以内 | 3(A) | 無人ヘリコ プターによ る散布 |

薬剤の使用に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、<http://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html> を参照する。

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、<http://www.jfrac.com/fracコード表/>を参照する。

5 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室

電話 0561-62-0085 内線471